

# Citrina 通信

キトリナつうしん  
No. 833



## イベント「昆虫体験」レポート "Insect Experience" event reports

**福** 島県矢祭町で、2024 年 7 月 28 日(日)、主催:一般社団法人ニワトコ(代表理事:矢崎潤子)、協力:早稲田大学生物同好会 OB ゆかいな仲間たち、後援:矢祭町・矢祭教育委員会のもと、「親子でまるごと1日・昆虫体験!」と題する、第 5 回古民家雑学講座のイベントが開催された。

### 水郡線東館駅.....

- 東京目白での仕事仲間の後輩 I 夏君と一緒に、常磐道を走って、イベントの準備のために前日入りした。正午前、予定より早く着いたので水郡線東館駅でディーゼル列車の単線のの上りと下りの待機を見た。入ってきたディーゼル車の先頭にはチョウトンボが張り付いて死んでいて、ホームの待合ベンチにツクツクボウシの死骸が転がっていたりするのを見て、‘虫の里’に来たのを実感する。
- 東館駅は列車が来る時だけ、年配の女性駅員が来る。汗を拭いている我々を見て、待合室で冷たい麦茶を出してくれた。その「ヒガシダテ待合室」はお洒落な看板が立っていて、地域のサロンとして開放されている。
- 無料のコーヒーマーカーがあるので、淹れようとしたら、駅員さんは、挽いたコーヒーマーカーでサイホンで淹れてくれ

た。話をしていると言っている。料理好きの女性 4~5 人がボランティアで、お年寄りのためにお弁当を届けるサービスをしているとのこと。矢祭町の皆さんの温かい日常を垣間見た。次回はお弁当を作った居酒屋「あつまり処あおちゃん家」に行ってみよう。



### 新部公亮さんの展示.....

■その後、駅前の町立「もったいない図書館」の廊下で、新部公亮さんの「神話と星座と虫の名と」の展示のお手

伝いを I 夏君とした。この新部さんの展示は以前から存じ上げていたが、実物を見るのは初めてで、作業のかた

わら、新部さんの熱い解説をお聞きした。新部さんの話は、目からうろこの話が多く、虫屋以外の人にも大いに受けるといった。

■その後、今回のメイン会場のユールパル矢祭の集会室での新部さんの「ビートルズ展」をお手伝いした。ビートルズが出した LP 14 枚の本物のジャケットを使って、それぞれのアルバムにまつわる虫の標本箱を並べた。

■2つの意味を持たせたいと“Beetles”に、リズムを連打する“Beat”を加味し、スペルを1文字変えて“The Beatles”とネーミングしたもの。ジョンレノンは「言葉だけを聞くとモゾモゾ動く虫をイメージするだろ。でも、文字を見るとビートルミュージックというわけさ」と語ったという。日

本でのカブトムシのイメージとは違い、英・米で甲虫類は嫌われている昆虫であった。(展示パネルの説明から)

■Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band (1967) の LP のパネルは、「多様性の星・地球甲虫展」<sup>ビートルズ</sup>と題して、標本箱の中のジャケットは“BEETLES”として、多様性を示すための夥しい数の甲虫類が刺してある。しかも本物のジャケットに載っている人物にまつわる甲虫を同じ位置に刺すまでのこだわりようだ。

■新部さんの熱く語る説明を聞いていると、心底楽しんで様々な展示を作っている事が良く分かった。ご本人は「私のは自然科学ではなく、人文科学的な標本だ」と言うが、そのとんでもない量と質の蘊蓄には驚く。



前夜祭

■ニワトコのメンバーの方々の好意で、ラズベリー農園にお邪魔して、ヤカンから搾りたてのラズベリージュースをいただいた。ほんのり甘くて酸味のあるジュースは、日中の準備作業で汗をかいた身体にしみわたった。

■早大生物同好会 OB で、ニワトコのメンバーでもある関 藤次右衛門さんの古民家‘そめや’にお邪魔して、ちょうどお宅の前の道で U ターンして引き返す、八幡様の巡行を見た。白衣装の男衆に担がれているのは一抱えも

ある石仏で、夏に向けて疫病を祓うために町内を巡るそうだ。

■お神輿を見ていたら、小原みね子さんたちが積み上げられた太い丸太材で何か探している。何か見つけたか聞くと、小さなカミキリムシが交尾していた。カタジロゴマフカミキリで、普通種なので譲ってくれると言うので、頂戴して標本にすることにした。昆虫館で矢祭町の虫たちの標本箱に並べよう。



■明日の講演会の演者の早大生物同好会 OB の横須賀孝弘さんは、古民家の庭の地面で吸水するオナガアゲハを見つけると、這いつくばって撮影していた。元NHKの自然番組のディレクター魂を見た。

■その夜は古民家近くの「さかなや」の2階で、関係者20名で、明日のイベントの準備が終わってのねぎらいの

「前夜祭」の祝杯をあげた。世界のアゲハ蝶研究者の中江信さんが持参した、アカエリトリバネアゲハとゴクラクトリバネアゲハの箱を披露すると、皆さんきれいだと感嘆の声をあげていた。今回の昆虫館ではモルフオチョウとともに必須アイテムを再確認した。

親子昆虫採集観察会

■7月28日、9時半から、町内の「来る里の杜(くるりのもり)」で小原夫妻講師のもと昆虫採集会が催された。

■朝には雨も上がり、高温警戒アラートも発令されず、地元の親子が車で虫捕り網と虫かごを提げて、次々と参加してきた。関係者はニワトコ支給のオレンジ色のTシャツを着てお手伝いをした。集合会場には、北米インディアン研究者でもある横須賀氏が提供したインディアンのテントが設営され、横須賀氏がインディアンの皮太鼓を打ち鳴らして、採集会はスタートした。

■子供が小さな虫捕り網を持った姿は、いつ見ても微笑ましくて、大好きだ。どの子どもどんな虫が採れるか目を輝かせているのもいい。目線の低い子供たちはチョウやトンボよりもバッタに目が止まるようで、草の上の虫に網をかぶせると簡単に捕れるので、人気があったようだ。

■約1時間の採集会が終わって広場に戻り、参加者全員で記念撮影。地元の方がこの日のために近くの雑木林で捕っておいてくれたカブトムシをお土産にもらって、子供たちは満足げに親たちと帰路についた。



横須賀孝弘氏の講演会

■今回のイベントの目玉の元NHKの自然番組のディレクター横須賀孝弘氏による「自然相手に七転八倒」と題した講演があった。講演に先立ち矢祭町佐川町長に挨拶に来てもらい、この矢祭町が虫を通して盛り上がっていることを知ってもらった。

■講演は現役時代の撮影の苦労話や普通では聞けない裏話をスライドや動画で観るのは面白い。ビーバーの生態説明には実物大のリアルなぬいぐるみを持って説明し、珍しいタツノオトシゴの仲間の魚の時も精巧なレプリカを曲げたりして解説し、あっという間の1時間だった。



ジオラマ工作

■今回のイベントの三つ目の目玉の小原みね子さんによる昆虫ジオラマ工作教室があった。みね子さんはこのジオラマ教室は何度も実施済みで、材料や道具など手際よく揃えてあった。

■参加した親子は初めは戸惑っていたものの、出来てゆくにしたがって親子で夢中になり、出来上がったジオラマを満足げに持って帰っていた。



古民家改修に向けて

■翌7月29日は佐川家古民家で改修工事の打合せを関係者で行った。庭には建具屋さんなど工事関係者の車が所狭しと並んでいるのを見て、いよいよ改修工事に向けてたくさんの人が動き始めたことを実感した。

畳を替えて、障子などを張り替えるのが楽しみになった。  
■二つあるうちの小さい蔵の扉を開錠して、オーナーの方に納められている歴史的荷物の確認をしてもらった。荷物を片付けたところで、第2の収蔵庫として使えればと考えている。

■この古民家のオーナーが植木屋さんを手配してあって、庭の雑草は刈られ、木は剪定されてみるみるきれいになり、母屋は古いカーテンを外し、お嫁さんが畳に掃除機をかけたところ、見違えるほどほどにきれいになった。

■母屋の大きな梁の節から松ヤニがにじみ出ている、古材がまだ完全に死んでいないことに驚いた。改めてこのように活用することになって、良かったと思う。



■矢祭町の皆さん、今回の虫の里プロジェクトを支えるニワトコの皆さん、早大生物同好会 OB の皆さん、昆虫館を作る皆さんとの2泊3日の交流は濃厚な体験となった。東北の南端の一つの町がこれほどエネルギーに活気があることに驚くとともに、昆虫館の実現に向けて、自分の建築家人生の最後のご奉公と、老体に鞭を入れなくてはと思った。

タイトル画像: 屋号「そめや」の関家の家紋「揚羽蝶」を染め抜いた暖簾

(寺章夫／2024年8月8日)